

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 理工学研究科グローバル人材育成支援室/室長

氏 名: 新留 康郎

| | |
|---|--|
| 授業科目名 | 理工系国際コミュニケーション海外研修 |
| 研修先 (大学・国・都市名) | サンディエゴ州立大学(アメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ) 西オーストラリア大学(オーストラリア連邦西オーストラリア州パース) |
| 研修期間 | 2019年6月28日 ~ 2019年9月22日 |
| <p>【研修の目的・概要】</p> <p>本プログラムは、①グローバルな課題について理解を深めること、②国際的に活躍する人材を目指し、長期留学、海外の研究開発機関での研修などを実現しようとする意識を持つこと、③国際的な企業への就職や海外勤務について前向きな意識を持つことを目的にしている。具体的には、参加大学院生に対し以下の6つの目標を設定している。①自らの専門性を基礎としながらも、その専門範囲や日本という枠を超えた広い視野から課題を見つけ分析すること。②積極的なコミュニケーションを伴う共同作業と客観的データに基づく議論によって、課題の解決策を提示すること。③研究者・技術者として自らの進路に具体的な目標を定め、長期留学や海外での就業に向けた意欲を持つこと。④海外在住の知人・友人を作ること。⑤帰国後、質の高い報告をすること。⑥英語によるコミュニケーション能力を向上させること。</p> <p>米国サンディエゴまたは豪州パースへ派遣し、期間は10週間である。期間中は語学学校での英語研修に加えて、地域貢献実習(博物館でのインターン等)や理工系プログラムへの参加を行う。宿泊は全期間通じてホームステイを実施する。</p> | |
| <p>【研修の成果】 *事前学習も含む。地域のグローバル化や活性化に資する人材育成についての成果も記載してください。</p> <p>米国サンディエゴへ理工学研究科博士前期課程1年1名、豪州パースへ理工学研究科博士前期課程1年生9名と人文科学研究科博士前期課程1年1名を派遣した。これは、研究科Q2期と夏季休暇の期間を利用した。渡航前の事前指導では、特任教員が英語研修と個人カウンセリングを行い学生に危機管理意識と目的意識を持たせた。</p> <p>派遣先における英語研修は、学生のレベル別にクラス分けを実施しており、それぞれの目標に応じた研修が用意された。クラスは多国籍の学生によって構成されており、特にコミュニケーションを重視したカリキュラムによって、学生はコミュニケーション能力と国際的視野を身に付けることができた。また、学生は全員期間内にクラスの修了条件を満たすことができ、修了証を得ている。</p> <p>サンディエゴ研修では、5週間の語学研修終了後に科学博物館での地域貢献実習を実施した。この実習では、博物館のボランティアスタッフとして来訪者への説明や、科学館プログラムの実施補助を行い、学生は就業体験によって海外で働くイメージを得ることができた。</p> <p>パース研修で語学研修のほか複数のプログラムを実施したが、特に現地大学が企画した理工系プログラムでは、調査研究やディスカッションを行い、広い視野から課題を見つけ分析することに挑戦した。この研修を通じて自らが培ってきた能力がどの程度通用するのか、また自らに足りない資質は何かを体験的に学ばせた。地域貢献活動では、派遣学生の関心に基づいたテーマを自主的に選択し、鹿児島と現地との比較を行った。また鹿児島市と派遣先パース市が姉妹都市であることを活用し、市役所主催のスタディツアーも催行した。建設中の美術館プロジェクトについて、通常立ち入ることのできない現場で案内を受け、有意義な学びとなった。</p> <p>これらの研修により、参加学生が地域のグローバル化や活性化について自分の意見を持つことにつながっていると、研修期間に作成されたレポートや研修終了後アンケートから評価している。</p> | |
| <p>【今後の課題】</p> <p>本研修は、2019年度より大学院全学横断的教育プログラム科目に指定されており全研究科からの派遣参加が可能なものである。今年度は人文科学研究科から1名の参加があったが、次年度以降はさらに他研究科からの参加を増加させたい。</p> <p>西オーストラリア大学とのプログラム企画については、来年度の開催に向け更なる内容の充実を鹿児島大学と先方大学間で検討する。</p> | |